

民間日本語学校教員養成機関から From A Private Japanese Language School Teacher Training Institution

山中 孝志 YAMANAKA Takashi
岡山外語学院 Okayama Institute of Languages

【キーワード】 日本語学校, 日本語教師, 日本語教師養成講座

1 岡山外語学院について

岡山外語学院は1992年6月日本語教育振興協会の認可を受け、1992年10月より岡山外語学院日本語科として日本語教育を開始した。2012年に学校法人化し、現在各種学校として2学科-日本語科, 国際人材支援科, 定員320名で2016年9月末現在252名が在籍している。在籍者の出身国・地域ではベトナムが一番多く、約44%, 次いで中国が約40%, インドネシア5%, 15カ国から来ている。

2 岡山外語学院の教員について

ここ数年来、日本語教師不足が深刻化しつつあるが、岡山外語学院の教員について紹介したい。2016年9月末の岡山外語学院の教師の年齢別、男女別の数字は下記の通りとなっている。

年齢別	男	女	計	%	うち常勤
～25歳		2	2	5%	2
26～30歳		1	1	3%	1
30代	2	6	8	21%	1
40代	1	12	13	33%	4
50代	1	10	11	28%	2
60代		4	4	10%	
計	4	35	39		10

表1 教師の年齢別構成

また、教師の勤続年数別の数字、教師の資格の内訳は次の通りであるが、資格が重複している教員もいるので、延べ人数を記した。そのうち日本語教育

以外の何らかの教員免許取得者は20名である。

日本語教師養成講座出身者及び日本語教育能力検定試験合格者のほとんどは転職組であり、何らかの社会経験を積んだ人たちが大半を占めている。日本語教師養成講座出身の大半は岡山外語学院の日本語教師養成講座の修了生である。

勤続年数	男	女	計	%	うち常勤
3年未満	2	16	18	46%	3
3年～10年	1	7	8	21%	4
10年～15年		9	9	23%	1
15年～20年		2	2	5%	1
20年以上	1	1	2	5%	1
計	4	35	39	100%	10

表2 教師の勤続年数

資格	延べ人数	備考
養成講座420時間以上	31	うち当校養成27名
日本語教育能力検定試験	15	
修士主(副)専攻	2	
修士主(副)専攻	1	
学部主専攻	3	
学部副専攻	2	
総計	54	

表3 教師の取得資格(延べ人数)

日本語教師の募集方法は次の通りである。

(1) 日本語教師募集サイト(無料)や日本語教育関

連の出版社のサイトなどを利用する。

(2) ハローワークに情報を出す。

(3) 県下のボランティア団体、近隣の日本語教師養成講座関係者、岡山外語学院日本語教師養成講座修了者、大学の日本語教育関係者に声をかける。

(4) 研修会を行い、その参加者に声をかけるなど。

以上のような方法で教師を募集しているが、人材不足を解消することは困難を極めていると言わざるを得ない。

なお、2016年4月には常勤として新卒を1人採用した。従来非常勤講師としての採用は少なからずあったが、常勤としての新卒採用は経験を重視する日本語学校にあっては困難を伴うものであった。しかしながら、人材不足並びに人材育成の要請もあり、常勤としての新卒採用に至ったものである。これからの日本語学校の課題は新卒の教師を一人前の教師に導いていくことであろう。女性の多い職場として保育施設の充実なども行われることが望まれよう。

3 岡山外語学院の日本語教師養成講座について

岡山外語学院の日本語教師養成講座は1994年に開始、現在まで約200名の修了生を輩出している。日本語教師養成講座を始めたきっかけは開校当初日本語教育資格を持つ日本語教師の採用が非常に難しかったこともあり、自前で日本語教師を養成することを意図したことであった。また、当初から養成修了後すぐに教壇に立てることを目的としており、かなりの部分を実習に充ててきた。修了まで2年弱で1年目を基礎科、2年目を応用科と呼んでいる。他の日本語教師養成講座と比較すると、受講期間が長く、前述の通り実習に重きを置く講座となっている。一般社団法人全国日本語教師養成協議会（全養協）に加盟しており、5区分及び「実技・実習」の6区分（全養協の区分方法）では以下のようになっている。

全養協条件は満たしてはいるものの、「実技・実習」が多く、「社会・文化・地域」、「言語と社会」、「言語と心理」の時間数がやや少なくなっており、法務省

の新告示基準や文化庁の指針に沿うべく、講座の中身の検討を行っているところである。

今年度の日本語教師養成講座には18名の参加者があり、年齢別・男女別、養成講座参加へのきっかけ、養成講座参加時の職業などは次の表の通りとなっている。

区分	単位時間	%	全養協条件
社会・文化・地域	15	4%	10以上
言語と社会	15	4%	10以上
言語と心理	15	4%	10以上
言語と教育	60	14%	50以上
言語一般	120	29%	100以上
実技・実習	195	46%	100以上
計	420	100%	

表4 養成講座の科目構成と全養協の区分

年齢的には40代以上が約8割を占めており、若い世代の受講が少ないことが顕著となっており、現役を引退し、日本語教師を目指す受講生が引き続き多くなっている。

男女別ではやはり女性が圧倒的に多くなっている。

年齢別	男	女	計
20代		4	4
30代			
40代		2	2
50代	2	8	10
60代		2	2
計	2	16	18

表5 受講者の年齢構成

職業	男	女	総計
会社員	1	6	7
元教員		5	5
大学教授	1	1	2
スクールカウンセラー		1	1

公務員		1	1
自営業		1	1
不明		1	1
総計	2	16	18

表6 受講者の職業

受講のきっかけ	男	女	総計
第2の人生	1	6	7
夢だった		4	4
大学で必要	1	1	2
不明		2	2
ホームステイ受け入れあり		1	1
海外で教える予定あり		1	1
外国へ行きたい		1	1
総計	2	16	18

表7 受講動機

岡山外語学院日本語教師養成講座受講者の修了後の動向については、下記の通り。

- (1) 岡山外語学院で日本語教師として就職。
正規の日本語コース及びそれ以外のプライベートレッスン、教師派遣、外国との間でのWEB授業などを受け持つ。
- (2) 近隣の日本語学校や大学で日本語を教える。
- (3) 近隣のボランティア団体で日本語を教える。
- (4) 岡山外語学院から海外へ派遣など

4 大学との連携について

教員養成における大学との連携は、近隣の大学から授業見学を引き受けるのみに留まっており、相互の研究活動などは行っておらず、日本語教師として就職してもらうためにも相互の関係強化がこれからの課題であろう。

ただ、県内の多くの大学と包括協定は結んでおり、学内で日本語教育を行っていない大学などで日本語教育の部分を担当などの関係は強化してきている。

5 日本語教師の課題

日本語教師の課題として考えられることは次の通りである。

(1) 教授経験の長いいわゆるベテラン教師の意識改革

ベテラン教師の多くは成功経験を少なからず積んできているが、学生たちのニーズや考え方の変化についていけない、あるいはそのことに気がつかない教師がいることである。

日本語学習者の目的が多様化していることを認識することも重要なことである。

(2) 民間の日本語学校は日本語を教えることのみならず、進路指導、進学指導、生活指導など業務が多岐にわたっており、狭い意味の日本語教師でないことを強調しなければならない。

しかしながら、日本語を教えることに汲々としており、日本語教育以外にまで力が及ばないことが多いと言わざるを得ない。

(3) 民間の日本語学校はサービス業としての日本語教育を標榜しており、顧客満足度も非常に重要視している。これは学生に迎合するのではなく、日本語教師としての基本中の基本ではあるが、わかりやすく、楽しく教えることである。ただ、いわゆるしつけの部分も無視できない。この顧客満足度としつけという一見相反する事項を、バランスを取って、学生と接するということが重要である。

6 最後に

日本語教師養成講座では「社会・文化・地域」、「言語と社会」、「言語と心理」、「言語と教育」、「言語一般」と日本語教師として必要な知識など幅広い分野で講義などを行い、養成を行っている。また、現職の日本語教師も日々授業のスキルを向上させるべく、努力を続けている。

日本語教師として必要な知識を身に付けることや授業のスキルを向上させることは非常に重要なことである。しかし、教師としてあるいは人間としてそれだけでいいのだろうか。

教育全般について言われることでもあるが、他人に関心を持つ教師、情熱を持ち続ける教師、また良識ある人間であることこそが重要ではないだろうか。教師養成ではできない部分ではあろうが、そのことを養成講座受講者、現役教師にそのことを訴え続けることが重要だろう。